



常任理事 川澄 佳洋

日時 平成28年2月24日(水)午後0時
場所 CBC放送センター7階 スタジオ収録
放送日 平成28年3月10日(木)

2月24日(水)にCBC放送センターにて、CBCラジオ番組「つボイノリオの聞けば聞くほど」内の「境界線のツボ～土地家屋調査士Q&A」というコーナーの収録に臨みました。

当日は11時50分に1階受付脇で、平井副会長、南館理事、岸田財務部長と名古屋法務局の方々と集合した後に、別階にある収録スタジオに移動し、つボイさんの生放送の終了後に収録となりました。

通常は一人が2回分の収録を担当するのですが、法務局からは是非出演させて欲しいとのお願いもあり、1回分のみの担当となりました。

つボイさんが生放送を終えるまでの間、スタジオ横の休憩室で待機していましたが、そこには別番組の収録予定の北野誠さんやそのアシスタントの女性アナウンサーもいて別世界に来たような感覚を持ちました。

また、CBCラジオの副社長や広告代理店の社長も挨拶に来られて会話をする機会があり、台本があるとどうしても棒読みになってしまうこと等を相談したところ、むしろあまり上手だと視聴者はプロが喋っている様に聞こえるので、多少棒読みでたどたどしい位のほうがいいですよとおっしゃっていただき、緊張が和らぎました。

いよいよ収録となりスタジオ内に入りました。最初に法務局の高木さんが「筆界特定制度」を題材に収録することとなり、時折関西弁のイントネーションを交えながら、取り直しもなく順調に録り終えました。その間私たちはその様子をガラス越しに見学していましたが、横にいた平井さんや岸田さんが私の顔を見て「顔が青いぞ！」とのツッコミも入り、いよいよ緊張感はマックスとなりました。



緊張マックス！

とうとう出番となり、高木さんと入れ替わりにスタジオに入り、つボイさんの前に座りました。普段は小高さんが座る席でしたが、この日は残念なことに小高さんが欠席のため、2人での収録となりました。

まず、マイクチェックの為に名前を聞かれ「川澄佳洋です」と答え、問題がなかったのもそのまま本番が始まりました。



収録中

私が担当した回は「空き家問題」についてでしたので、空き家を放置しておくことのデメリット等を述べた後に、解決策として売買や賃貸等が考えられ、その際には登記をしてください、という流れになっていましたが、土地家屋調査士の本来の業務と結び付け辛い面もあり、ほかの回の台本よりも明らかに文章の量が少なく、とても放送時間の5分は持たないと思いました。そこで、アドリブを入れなくてはと考へ、同行していただいた方たちとネタを作っておいたのですが、緊張はもちろんのこと、それ以外にも今までの収録で録り直しは1回も無いとの平井副会長の脅し？もあり、冒険することなく無難に終えてしまいました。余った時間については、つボイさんが引き延ばしてくれたおかげで何とかなりました。

終わってガラス越しに向こう側を見ると平井さんと岸田さんがなぜか大爆笑しており、つボイさんが「向こう側の人たち何故あんなに笑っているのかね？」という程でした。

あとで聞いてみると、いつアドリブを入れるのか待っていたのに、最後まで言わなかったのも、みんなで収録の間中「言え！」って盛り上がっていたと言われました。

ブースから出た時には「チキン」という有り難くない称号までいただきました。

その後、つボイさんと出演者の2人で記念撮影をして終了となりました。



無事に？終了



記念撮影

元来、目立つことがあまり好きではないので、出演することにあまり乗り気ではなかったのですが、こんな機会は、もう一生のうちでないかもしれないと考えれば良い経験をさせていただいたと感謝しております。ありがとうございました。

